

情報電子工学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第11回科学技術におけるロボット教育シンポジウム
演題名	WRO2017コスタリカ大会における競技ロボットの設計製作と動向
発表者	○高橋大地（宇都宮キャンパス情報電子工学科2年）、宇賀神理恵、尾崎慶悟、 <u>波江野勉</u> 、 <u>蓮田裕一</u>
内容	<p>本報告では2016・17年開催のAdvanced Robotics Challengeにおける参加国・地域の状況及び参加チームが用いているCPUなどの使用機器の特徴などを考察し、ARC競技の今後の展望について言及している。2017年のコスタリカ大会に日本代表として参加した帝京大学チーム「Teikyo Robo Lab」は3位に入賞する好成績をあげている。2017年大会はロボットに求められる制御が高度なものになり、カメラでの画像処理のみの制御では対応しきれない。今後はセンサやモーターを使用できるため、攻略の幅が広くなりよりアイデアや戦略が求められる。</p> <p>ARC2018では2017のルールをほとんど引き継いでいるが、昨年の上位チームの戦略を封じた結果になり、例年以上に難易度が高い。コースの寸法誤差にも適応できるようにするため、世界大会用に枠のコース内への出代や枠内底面のコース床面からの高さを、プログラム上に値を入力するだけで調整ができるようにしている。</p>
関連画像	